



No. 587 附録

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

編集発行人 田中幹夫

〒113-0034 東京都

文京区湯島2-4-4

平和と労働センター・全労連会館

電話 03(5842)6461

FAX 03(5842)6462

E-mail

chian@bz03.plala.or.jp

頒価 50円

兵庫版 No. 470

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

兵庫県本部

〒650-0022 神戸市

中央区元町通6丁目6-12

山本ビル 国民救援会内

TEL(078)351-0677

FAX(078)371-7376

亀井 洋示

治安維持法国賠同盟兵庫県本部 創立40周年記念集会 5月13日(土) 午後1:30 神戸市まちづくり会館 2階ホール

神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話: 078-361-4523

(JR元町駅から西へ徒歩10分弱)

■記念講演

「国賠運動の歴史と課題」

吉田万三 中央本部会長



記念レセプション (16:30~18:00)

会費3000円 (事前にお申込みください)

会場: 雅苑酒家 (南京町)

兵庫県神戸市中央区栄町通2-8-7

治安維持法国賠同盟兵庫県本部は、昨年10月3日で創立40年を迎えました。これを記念して5月13日に「創立40周年記念集会」を開催します。

記念集会では、吉田万三・同盟中央本部会長の記念講演「国賠運動の歴史と課題」、功労者紹介、「40年史年表」披露などを予定しております。

また、近隣同盟府県本部や各界のご協力いただいている方々をお招きして「記念レセプション」を開催します。

ご参加希望の方は、同盟県本部へご連絡ください。

県本部第41期 第6回幹事会報告

中央の特別期間に呼応し、 県同盟40周年を確信にして 早期に1200名達成を

第6回幹事会は4月14日開催されました。

中央常任理事会の方

針「署名・会員拡大目

標達成特別期間(4月

1日~6月30日)を受

けて、兵庫県本部とし

て「運動計画」を策定

しました。5月16日の

国会請願に1会員5筆

以上の署名を集集する

こと、5月13日の「県

本部創立40周年記念集

会」を結節点にして早

期に会員1200人達

成をめざします。この

運動を新たな支部建設

に結合し、8月の県本

部総会成功につなげま

す。また、映画「伊藤千代子の生涯」の第三次上映運動も広げます。

【3月の活動のまとめ】

《署名運動》

全会員に署名用紙をとどけ、

新たな586筆が集まり228

1筆に到達しました。尼崎支部

と但馬支部が1会員5筆を達

成。3・13重税反対統一行動で

の署名収集も前進しました。4

月末時点でさらに515筆が

集約され2796筆まで到達し

ました。昨年の3000筆まで

あと一息です。

《会員拡大》

4支部と4地域で15人が入会

し3月末で1166人の会員数

です。4月には14人が入会し現勢1168人となっています。1200人まであと32人です。4月の幹事会では、各支部に「拡大セット(入会のしおり、署名用紙、機関紙・不屈、会費振込用紙)の封筒」を提供することとしましたが、対象者への資料渡しは奏功しているようです。

【5・1メーデーのとりくみ】

コロナ禍の自粛からほぼ平常

の活動にもどり、今年のメー

デーには、各地で「国賠署名の

旗」がなびきました。神戸での

「中央メーデー」には東灘支部、

中央支部、明石支部などから11

人が行動参加、署名86筆とその

場での入会が3名ありました。

尼崎では5人が行動し署名11

2筆、入会が1人です。加古川

では2人行動20筆の署名でし

た。(合計・行動参加118人、署

名11218筆、入会4名)

【情勢】

統一地方選挙の結果は、日本共産党の議席が減少するなど残念でしたが、全体としては自民・公明の退潮傾向が顕著という特徴がありました。一方で与党の補完勢力である維新の議席が増加していることには懸念が広がっています。日本を戦争に巻き込む岸田内閣の暴走政治(「大軍拡・大増税」「原発回帰」「ジェンダー不平等」「物価対策無策」「酪農切り捨て」「報道弾圧」「入管法改悪」等)に対する確な反対運動が求められています。そして、野党共闘の障害ともいえる反共攻撃を跳ね返す運動が必要です。今、ここにこそ「治安維持法・国賠同盟の運動」の大きな意義があります。私たちの運動を通じて岸田政治・ストップの世論と共同の広がりをつくり出しましょう。

【国会請願に支部代表派遣】

国会請願行動への参加は、辻

修(兵庫県本部副会長)、山元光

(東灘支部)、永井義弘(中央支

1972年、宗田瑛子さんと 新婚の棧敷よし子さんの出会い

宗田瑛子さんへの聞き取り (3月21日)

宗田さんが、「不屈」連載中の棧敷よし子さんと会ったのは、棧敷さんが70歳、東灘に住む民医連生田診療所所長を務めた口分田勝さんの妻、彩子さんのお父さんである依田壮介氏と結婚し、東灘の口分田家の近くに住むことになった時です。宗田さんが37歳の時。

「和歌山へ行かれ別れた時、私の母の形見の裁縫箱の中に棧敷さん自筆の文を入れたことなど『不屈』連載を見て、楊井さん元井さんの事とも重なり思い出しました。大切な人、不屈の人でした。でも穏やかな笑みが、素敵で忘れられませんか。多くの人が歯を食いしばり頑張っても崩れていくような時でも、どんなときにも前向きに生きていくこと

を教えていたのだと思ふ。中国で、八路軍と行進中会った中国人の女性で、従軍慰安婦にさせられた女性のころなど涙ぐんで話してもらったこともありま。それまで機会のなかつた夫さんへの愛情弁当作りのお手伝いをしました。だ

しの取り方や塩分の量、出しづくり、卵焼き、目玉焼き、半熟卵、出汁巻き等練習された。出来上がると自転車で行かれました。棧敷さんは苦勞して来られた方だから口分田彩子さんの父上と結婚されて大切に一緒に生活すると、...そのつれあいを亡くされ、別れて大阪、和歌山へ住所を変えられました。棧敷さんが若い時使っていた学習机を、別れの記念だとして使わせてもらった。震災の



時に机は冷蔵庫の支えとなりずいぶん助かり、使うたびに棧敷さんを思い出します。」

出会いは、宗田さんが37歳の時。私も棧敷さんのような生き方をしたいと思つたと語ります。宗田さんの父は、旧の御影町で自民党の町会議員。1953年18歳の時、日中友好協会に入つて活動、1956年21歳で日本共産党へ入党、日中友好協会を知り合った船津さんと同年5月1日メーデーのあと御影公会堂で結婚式をしました。現在ディケアの最中の聞き取りでした。(聞き手 田中隆夫)

部)、川村勝(明石支部)の4人です。県本部創立40周年記念集会(5月13日)までに署名を集めてください。

【創立40周年記念行事】

記念講演は中央本部の吉田万三会長の記念講演に期待が広がっています。近畿の県本部からの参加、県内の友好団体からも続々と参加が得られています。歴代会長のご遺族や創立当初からの功労者の方々も参加します。

参加ご希望の方は、急いで県本部までご連絡ください。

【その他】

●第67回兵庫県母親大会5月28日(日)姫路市市民会館で行われます。積極的にご参加下さい。

●今年の近畿ブロック会議は9月25日(月)～26日(火)、大阪で開催されます。

●第32回全国女性交流会は10月29日(日)～30日(月)、愛知県・蒲郡市のホテル竹島で行われます。

8月10日 歴史教育者協議会主催で、関西学院に於いて「全国大会」が開催されます。齊加尚代MBSディレクターの「教育と愛国」の講演などの後、6時半から分科会開催され、同盟兵庫県本部として「兵庫の新興教育」をテーマにお話をします。そのテーマの紹介を掲載します。

新興教育運動を知って

中野照雄

森垣修の希望

但馬のスケールの大きい偉大な教育者であった森垣修（地域に根ざす教育）を實踐し、全国の間と共にその価値を追及した人物）が講演をした終盤には、決まって話されるのが下村綱三（叔父・森垣の母方の姓）のことでした。

下村綱三は1930年代の初め、人間の自由を抑圧する治安維持法の下で、人間の尊厳を大事にする、真実の教育を進めた「新教」（新興教育）・女性や教職員（の権利を守る）「教労」（日本教員労働者組合）に関わった若い勇気ある教師の一人でした。

1936年12月、神戸の御蔵小学校時代の先輩教師、倉岡愛穂と窪田弘道らと特高に逮捕されてしまいます。出獄後は体が弱り、若くして逝ってしまい、森垣は幼少の時出会っているのだが記憶になく、とても残念な心境を語っています。その叔父を尊敬し、その志を受け継いでいるニュアンスで講演されていた森垣修の表情を、今でも印象深く覚えています。

倉岡愛穂の不屈

私は、退職するまで倉岡愛穂が御影警察署で絞殺されたことを知りませんでした。2014年4月19日第6回「倉岡愛穂墓

前祭・偲ぶ会」に兵庫県からマイクロボスで京丹後市の墓碑まで連れていってもらい、参加して初めてことの次第を知りました。

倉岡愛穂の絞殺された遺体の咽喉に暗紫色の輪形がくつきりとあったことや、署長や検事が「医者に見せるな。公然と葬式するな。死亡通知出すな」と厳命し絞殺を隠ぺいした。しかし30数年後に仲間の手で明らかにされ今に語り伝えられていきます。偲ぶ会にさそってくれたのが、子どもをこよなく愛した神戸のスーパードクター・故田中敏夫（作文の会・神戸子どもを守る会・平和運動・年金者組合などの各リーダー）でした。偲ぶ会ではたくさんの資料を準備してくれており、それを今も大事に持っています。中でも「兵庫での新興教育運動の仲間たち」（田中隆夫著）の論文は、戦前の新興教育運動の子どもを主人公にした実践活動の様子が詳しく書かれ、暗さはなく明日への希望を育む温かいものでした。ま

たその値打ちが生かされた、戦後すぐの教職員組合結成時のリーダーとして、仲間の活躍が目覚ましかったこと。そして森垣修やジブリの宮崎駿の現在に受け継がれていることが分かります。やすく述べられ、深く感銘を受けました。

戦前戦後のこれらを民主教育運動と呼ぶとすれば、森垣修や岸本裕史を経て、そのすそ野は広く多様に広がっていると私は思っています。

歴史教育者協議会 第74回兵庫(西宮)大会

2023年8月10日(木)～11日(金・祝日)

会場：関西学院大学 西宮聖和キャンパス

【8月10日(木)午前10時～ 全体会】



全体講演：齊加 尚代氏(MBSディレクター)
題：教育と愛国(仮)
——誰が教室を望みさせるのか——

第55回キャラクシ 賞テレビ部門大賞を受賞。
また個人として放送ウーマン賞2018を受賞。

現地参加券
1000円
(兵庫の方
8/10のみ)

兵庫歴史教育者協議会 事務局：堀次寛 e-mail: rekko2009@yvancc.co.jp

神戸の空に一

兵庫県党創立に参加した三宅右市

兵庫民報掲載の同盟県本部企画「兵庫県 日本共産党誕生期を探究する一労働者、市民の活動」第6回(2月26日号掲載)に掲載された兵庫県初の日本共産党神戸細胞(現在の支部)の2代目の支部長となった三宅右市さんの記事を読まれ、三宅氏の出身の岡山県の治安維持法犠牲者国賠同盟の機関紙に掲載された記事を転載し、紹介させていただきます。



二代目の日本共産党支部長となった三宅右市。サライマン・ユニオン本部、政治研究会神戸支部、事務所入り口で撮影。

板野勝次さんは1925年、岡山から神戸に移って活動し、1926年に海員刷新会の田中松次郎をキャップに5名で神戸市細胞を結成した。その中にも

う1人、岡山出身の三宅右市がいた。板野さんの著した『嵐に耐えた歳月』には当時のことが詳しく記されている。

板野勝次とともに神戸市細胞のひとりとなった三宅右市。彼は労働党対策、工場細胞準備会で活動し、大胆沈着、精神的な活動家だった。三宅右市は田中松次郎の後を神戸市細胞の責任者となる。

三宅右市は「本籍 岡山県御津郡牧山村北野1584番地。明治大学法文科専門部卒。1925年頃から神戸地方で労働運動に参加。日本俸給生活組合に属し、評議会中央委員、労働党中央委員・兵庫県連

常任として活動。1926年1月に日本共産党に入党した。

3・15弾圧の時、神戸で逮捕、投獄され、懲役六年の刑。釈放後に「ハンセン病」を発症し、岡山県の長島愛生園に収容される。

旧友、岸本邦巳が「日本共産党三五周年」にあたって

三宅右市を偲んで読んだ歌(板野勝次著「嵐に耐えた歳月」から)

右市の「ど根性の太さ」ボソボソと語り出す理論のたくましくも凄く

兵庫県本部の田中隆夫さんは「兵庫民報」2・26に三宅右市のことを「一九三六年、長島愛生園で待遇改善の闘いを指導したが、官憲の弾圧と病院側の懐柔策で闘いは収束させられ、三

宅右市は責任を取らされて香川県の大島青松園に転院させられた」と紹介している。そこでの「待遇改善の闘いとは」。

この事件を契機に群馬県の栗生楽泉園内に「特別病室」が設置され、あの忌まわしい22名の凍死者を出した「癩刑務所」建設につながる。

戦後、三宅右市が帰郷したのは久米郡福渡町。その後、金川町牧山に転居して若くして亡くなる。牧山は旭川の川下。金山の中腹に「北野」という集落がある。今は岡山市北区。

「解放のいしずえ」を見ると「三宅右市」は1956年(昭和31年)第9回目の「解放戦士無名戦士の墓」に合葬されている。三宅右市の戦中、戦後の闘いは。治安維持法犠牲者の発掘と顕彰の課題である。

(岡山県本部 福井正樹)

棧敷よし子 (ジヨセフィン) (10)

田中隆夫

愛媛・結核との闘いへ

女子大の先輩谷野せつこの紹介で全国十の結核予防模範地区指導所派遣が決定した。倉敷紡績の結核で倒れた多くの女工を思い出し岡山県を希望した。身寄りのない宮崎美代ちゃん、腸結核を併発、倉紡の病院で死亡、稲穂をかき分けるように工場の裏の田圃道を焼場へ鳴きながら進む女工の葬列に参加した思いは、昨日の事の様だ。倉紡の女工を思い出し、心弾ませて返事を待ったが、当時衛生行政は警察の管理下で「倉紡ストの張本人は来てもらったは困る」と拒否、結局愛媛に決まり1941年4月に赴任した。

1937年に保健婦が生まれ、疫病予防の

指導、母性・乳幼児の保健衛生指導、傷病者の療養補導その他日常生活に必要な保健衛生上の業務と定められた。

戦争へ総動員体制下の結核発病

この年、北京郊外の盧溝橋で戦火を起こし北京、上海、南京を占領、翌年、国民精神総動員運動を始め国家総動員法を制定する。国民徴用令で軍需工場動員、価格統制令、大政翼賛会結成、隣組など全国国民戦争推進体制を作り上げ1941年に太平洋戦争、へ進んだ。

「ゼイタクは敵、欲しがりません、勝つまでは」と極度の耐乏生活を強いた。衣料食料配給制で、妊産婦、乳幼児、病人にも卵・魚肉・果物を求めても得られない。

1942年総選挙では、軍部・政府に協力候補が推薦され、翼賛政治会が生まれた。警察と憲兵が国民の思想動向を警戒、戦争へ批判的な者は検挙した。

棧敷には特高警察が常に監視、『保護観察法』下におかれ、人口1万八千人の結核多産の「愛媛県北宇和農村結核予防模範地区指導所」に赴任、1940年11月保健婦の活動を開始した。村民税十円以下の低所得者が93%。税の2円以下で50%、十円以下で90%の発病で死亡率も高い。

農山村の母・畑で流産

戦争が深刻になり、家の支柱の若い父親は召集。役立つ息子、娘は軍需工場へ。食糧供出で、薩摩イモは酒精工場へ供出、茎と葉は薩摩乾燥機にかけ供出、どの家でも主婦は家事育児以外に田植畑仕事養蚕に歯を食いしばり死に物狂いで働く。

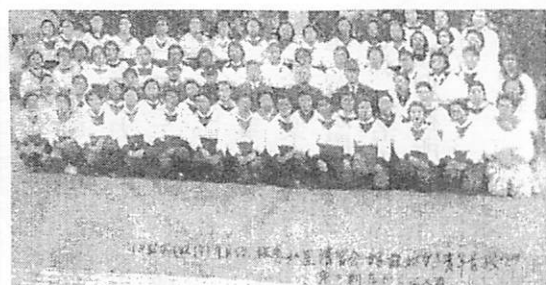
ある部落で畑の中で倒れた女性を助けて、3週間後訪問。「子が夏休みで畑を手伝っていた。カンカン照りで仕事が目まいがして座り込んだ、その時急に下腹がきつう痛うて、流産だったの、ひどい出血と痛みで気を失って・・」棧敷は「命びろいした。どんなに忙しくても無理を通せば道理が引く込むことわざ通りね」と言った。その時つくづく思った・・戦争が無理

であり、矛盾なのだ。「大東亜共栄圏の建設」「天に代わりて不義を打つ」等という言葉は何となく欺瞞に満ちた空虚な言葉なのか。

村には正式の助産婦はいない。初産で軽ければ第2子から自分一人で処理する。夫や近所のお年寄りの手を借りるのは良い方であった。交通不便の山深い部落ではこのような家庭が少なくなかった。

助産婦に

棧敷はこうした事態に直面し、医師になることをあきらめ、1943年秋、助産婦の検定試験を受けた。



1944年9月頃、救急処置講習会女子青年学校にて。2列目左から4人目棧敷